

12月議会

四季折々楽しめる花のエリアに

ムダな支出にならない、ラベンダー園を

千年の苑・ラベンダー園の繁茂と酷暑により蒸れ状態になって根腐れ現象が起るとともに、きつしまつたと説明し、全体が枯れる現象も発生し、多くの町民が今後の行く末を心配しています。

藤野和美議員は、「見頃1ヶ月のラベンダーだけでなく他の花も植え、周辺も含めて四季折々花を楽しむ場所として展開することが必要ではないか」と提案も含めて現状と今後の方針を質問しました。

厳しい財政の中 多額の町税を投入

土地そのものが適していないのではないかとという疑問は払しょくしきれていません。この地域は高温多湿で、地中海気候とはあまりにも違っています。

ラベンダー事業に対してのこれまでの町の一般財源からの支出についての再質問に対し、「2016年度より約2億5000万円が費やされ、そのうち町の一般財源から6400万円を支出した。」「来年度の維持管理費は今年度に事業協会から戻ってきた1350万円を充てる。」と答弁しました。

ラベンダー園まつりは 今年開催しない

町は、枯れる現象が起きた原因について、長雨による日照不足と排水不良による土壌中の酸素不足や雑草

「桜を見る会」疑惑。安倍政権が「餅を食ったら忘れる」なんて思っているのならば、今年もありません。安倍首相自身の公職停止5年となる公職選挙法違反をはじめ、さまざまな違法行為の可能性が重大疑惑です。「逃げ切り」を絶対に許さず、徹底追及を最後までやり抜く決意です。

明らかにになった 巨額事業

ラベンダーは、地中海地域を原産地とした植物で、水はけの悪い土地には適していません。町の説明では

子育て世帯への経済的支援を 年間予算の約1%で実施可能

嵐山町の人口は、11月1日現在で1万7904人だが、国の機関の将来推計人口によると、2045年には1万2128人、2060年には9034人になってしまいます。

藤野和美議員は「人口減少に歯止めをかけるためには、嵐山町の将来を見据え、『子どもは町の宝』と考え、学校給食費の無料化や子ども医療費を18才まで無料化、国民健康保険税の均等割の子どもの補助など子育て世帯への経済的支援を実施すべきである」

「それにより子育て世帯の町外流出を防ぎ、国1・43、県1・36、滑川1・69に比べ、1・07と低迷している合計特殊出生率をアップさせ、子どもたちが増えていく展望をひらくことが必要だ。」と質問しましたが、町は財政の厳しさを理由に消極的な答弁に終始しました。実現するためには、学校

厳しい財政状況のなか、町民が本来必要としている福祉・教育・生活関連事業を圧迫し、多額の町費が投入されてきたわけです。日本共産党が昨年9月に

行われた町議選で「自然・歴史を生かした観光で町おこし！ウオーキングの町・嵐山を」と訴えた様に、ラベンダー園が無駄な町費の支出をすることなく、観光客も町民も一年を通じて四季折々楽しめる花のエリアとして、発展できる様にすべではないでしょうか。

デマンドタクシーなどで 交通弱者の 外出支援を

現在、タクシー助成券の交付が行われていますが、65才以上で月4枚・年48枚と少ない現状です。

藤野和美議員は「往復で考えようと実質月2回で終わってしまふ。本格的な外出支援になっていない。今後さらに免許証の返上者の増加も予想され、交通弱者の外出支援が大きな課題となっている。」と指摘し「県内自治体では、デマンドタクシーなどの取り組みが始まっている。嵐山町でも取り組んで行くべきではないか。」と提案も含めて町当局の考

「桜を見る会」の疑惑に

安倍首相は、説明責任がある

川口浩史議員が意見書を提出

国費を使った公式行事である「桜を見る会」をめぐる、安倍首相が地元後援会を多数招待しての血税を使った買収疑惑や悪徳商法の会長を首相自身の推薦で招待し被害を拡大した疑惑、法律や規則を無視して公文書を廃棄するなど最初から組織的隠蔽をはかった疑惑など、首相自身が説明責任を果たすべきことが山積しています。

川口浩史議員が12月議会に提出した意見書は、安倍首相は説明責任を果たしていないので、果たすことを求める意見書です。

質疑では「安倍首相は説明を十分しているか、安倍首相は説明する責任がある」と説明しました。採決は否決でしたが、猶予勝義、洪谷登美子、藤野和美、川口浩史の各議員は賛成しました。

日本共産党



衆議院議員 塩川 鉄也



参議院議員 伊藤 岳



前衆議院議員 梅村 さえし

みなさん、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。

「桜を見る会」疑惑。安倍政権が「餅を食ったら忘れる」なんて思っているのならば、今年もありません。安倍首相自身の公職停止5年となる公職選挙法違反をはじめ、さまざまな違法行為の可能性が重大疑惑です。「逃げ切り」を絶対に許さず、徹底追及を最後までやり抜く決意です。

国政私物化、憲法破壊の安倍政権を、いつまでも続けさせるわけにはいきません。市民と野党の共闘を進展させ、安倍・自公政権にかわる新しい希望ある政治実現へ、力を合わせていきましよう。来たるべき総選挙勝利へ、みなさんの先頭に立ってがんばります。

新しい嵐山

連絡先 new-ranzan@cpress.pro

川口浩史 090-3438-5617

藤野和美 080-3449-2170

町会議員

発行 日本共産党嵐山町委員会